

Fukuoka City Hospital  
**F C H**

Vol. **48**

2024  
NewYear

**脳神経・脳卒中センターホットライン**  
365日24時間、専門医が対応



- 院長より新年の挨拶
- 脳神経・脳卒中センターご紹介
- 看護部だより
- 勉強会・研修会活動報告



地域医療支援病院  
地方独立行政法人福岡市立病院機構

**福岡市民病院**

福岡市博多区吉塚本町 13-1  
TEL 092-632-1111 FAX 092-632-0900  
<http://www.fcho.jp/shiminhp/>



## 新年のご挨拶

新年明けましておめでとうございます。

令和6年（2024年）の幕開けを迎え、皆様方にお礼とご挨拶を申し上げます。

平素より福岡市民病院にたくさんの患者さんをご紹介いただき、そして当院を退院された患者さんをたくさんお引き受けくださり誠に有り難うございます。2020年初頭から世界にまたたく間に広がったコロナ禍も、やっと落ち着く兆しを見せてまいりました。しかし当院はこの状況に決して油断することなくコロナ禍が終息するまでしっかり対応してまいる所存です。そして市民の皆様方、医療機関の皆様方と連携して地域医療のお役に立てるように今後も努めます。どうか本年もよろしくお願い申し上げます。

4年にわたるコロナ禍は、世界中で多くの犠牲者を出し、医療はもちろん経済、雇用、教育、社会などさまざまな分野に測り知れない影響を与えました。私たち医療従事者は何を学んだのでしょうか。そして今後に生かせる教訓は何でしょうか？

まず言えることは、ワクチンの重要性が再認識されたことでしょうか。新型コロナウイルスワクチン開発に決定的な役割を果たしたカタリン・カリコ博士とドリュー・ワイスマン教授が昨年のノーベル生理学・医学賞を受賞したのはまだ記憶に新しいところです。そして変異を続ける新型コロナウイルスに対して、「感染」そのものではなく「感染したときの重症化」を防ぐことがワクチンの重要な働きであることも分かりました。これは今警報レベルで流行しているインフルエンザについても同じことが言えます。インフルエンザワクチンは打っても感染そのものを防ぐ効果は50%程度といわれています。「感染した時の重症化を防ぐ」という点では新型コロナウイルスワクチンと同じです。さらに分かってきたことは、いわゆるLong COVIDといわれる新型コロナウイルス感染後に遷延する症状についてもワクチン接種者ではリスクを下げる効果がみられることです。

2番目は、感染防御における手洗い、マスク、対人距離を保つことの有効性が再認識されたことです。新型コロナ感染のリスクは、手洗いで50%低下させ、マスク着用で50%、対人距離を保つことで20%低下させたとする系統的メタ解析もあります。インフルエンザが猛威を振るい、さらには咽頭結膜熱や溶連菌感染も流行している今、もう一度基本的な衛生の重要性を肝に銘じたいと思います。





3番目は、デジタル技術の活用でしょう。テレワーク、オンライン教育、オンライン診療などを充実させることが将来の危機管理においても有益と思われます。新型コロナパンデミックのさなか、2020年4月に初めて導入されたオンライン診療料は、2022年4月の診療報酬改定でさらに充実されています。2022年6月に発表された経済財政運営と改革の基本方針2022（いわゆる「骨太の方針」）によって設置された「医療DX推進本部」の取り組みの一つとして今後もオンライン診療の活用が促進されると思います。

最後に私たちが学んだもっとも大事なことがあります。新型コロナウイルスによって人と人とのつながりが断ち切られた経験があるからこそ、コロナ禍が落ち着きつつある今、私たちは人と人とのつながりを大事にしたいと思います。コロナ禍で緊急事態宣言が発出されるたびに、世間では外出自粛と移動制限、テレワークの増加、学校や施設の休校・休業、飲食店や商業施設の営業制限、3密の回避などが繰り返されました。患者さんの受診回避もありました。病院や施設での面会制限もありました。医療従事者に対するいわれなき差別や忌避すらもありました。オンライン診療も大事かもしれません。それは来たるべき新たなパンデミック対策や医師の偏在対策にはなるでしょう。しかし、患者さんとのつながり、医療機関の先生方とのつながり、医療従事者と社会とのつながりをもう一度構築し、再生させることこそ、いま求められていることだと思います。

患者さんの目を見て訴えを聞き、患者さんに触れて診察し、温かい声をかけて帰してあげる。私たちは、この当たり前の医療の基本を新しい年を迎えて改めて実践してまいります。福岡市民病院は職員一同、地域の医療機関の先生方を支えられるよう一層努力いたします。本年も何とぞご指導のほどよろしくお願いいたします。



院長 **堀内 孝彦**



## 脳神経・脳卒中センター

脳神経・脳卒中センターは、平成15年4月に脳神経内科・脳神経外科が新設された当初から活動を開始しており、当院の中では最も実績の長いセンターといえます。脳神経内科・脳神経外科が共同して、脳血管・感染・変性・腫瘍・外傷・脊椎脊髄等、脳・脊髄・末梢神経疾患全般に対応しています。

更に当センターは令和元年9月より、一般社団法人日本脳卒中学会から「一次脳卒中センターコア (PSC:PrimaryStroke Center)」として認定されました。24時間365日、院内に専門医が常駐しており、「脳卒中ホットライン」を設けています。

**脳神経・脳卒中センターホットライン**  
(医療従事者専用)  
080-5213-0119 (24時間、専門医が対応)

### 【専門分野】

脳神経外科・救急

### 【専門医・認定医】

日本脳神経外科学会指導医・専門医  
日本脳卒中学会専門医  
日本脊髄外科学会認定医  
福岡大学医学部臨床教授  
福岡地域救急業務メディカルコントロール協議会委員  
JPTECインストラクター  
MCLSインストラクター



診療統括部長  
平川 勝之



## (脳神経・脳卒中センター) 脳神経内科

脳神経内科（当初は神経内科）は平成15年に脳神経外科とともに脳卒中・脳神経センターとして発足し、20年経過しました。医師は4人体制となっており、3人が神経内科専門医、神経内科指導医、脳卒中専門医でもあります。当院は日本神経内科学会の教育施設に認定されています。

当科の特徴としては神経内科疾患全般に対応可能ということが挙げられます。急性期疾患では脳卒中を始め、けいれん、神経感染症（脳炎、髄膜炎）、多発性硬化症、重症筋無力症などの疾患も診療しています。特に急性期疾患が中心ですが、パーキンソン病や筋萎縮性側索硬化症などのいわゆる神経難病の診断や治療も行っています。

また当院では、脳神経外科など他科との連携を密に行っています。脳神経外科、放射線科、看護部、リハビリテーション部のメンバーを交えて週3回朝のカンファレンスを行っています。

最近の話題として令和5年12月20日にアルツハイマー病に

対する新薬のレカネマブという薬が保険収載されました。この薬は年間薬価 約298万円と高額ですが、アルツハイマー病でたまっているA $\beta$ （アミロイドの1種）というたんぱく質を減らす効果があり、アルツハイマー病の進行を遅らせる効果が期待できます。臨床試験では1年半の試験で対照薬に比べて進行が27%遅くなる効果が示されています。（ただし、症状が改善するわけではありません）対象となる方は、軽度認知症（MMSEで22点以上、臨床認知症尺度 CDR全般スコア 0.5または1）で、MRI施行後、アミロイドPETもしくは髄液検査でアミロイド沈着が認められる方です。（それ以外にも規定があります）副反応としては一般的なものの以外に、ARIAという脳浮腫（12.6%）や、脳出血（17.3%）が認められています。そのため、この薬を使える施設にはいくつか条件（専門医が複数勤務、研修を受けること、MRIが可能なことなど）があります。当院でも使用できるように手続きを進めているところです。

### 【専門分野】

神経疾患全般、特に急性期神経疾患

### 【専門医・認定医】

日本神経学会指導医・専門医、日本脳卒中学会指導医・専門医  
日本内科学会総合内科専門医  
インфекションコントロールドクター（感染制御医）  
九州大学医学部臨床教授、日本神経学会代議員

脳神経内科科長 / 脳神経・脳卒中センター長  
長野 祐久



## (脳神経・脳卒中センター) 脳神経外科

脳神経外科は2003年4月に脳神経内科と共に脳神経・脳卒中センターとして開設され、手術の必要な「脳血管障害」をはじめ「頭部外傷」、「脳腫瘍」、「脊椎・脊髄疾患」など脳神経外科疾患全般に対応してきました。その後2009年4月からSCU 6床の運用を開始し、2013年10月に脳血管内治療部を新設して、診療に当たっては脳神経外科・脳神経内科医師に加え放射線科医師、看護師、薬剤師、リハビリ療法士、ソーシャルワーカー、管理栄養士などとともにチーム医療を実践してきました。脳神経内科とともにモーニングカンファレンスを隔日行い、当科では毎週テクニカルカンファレンスを行い、術前の治療方針の検討や術後の検証を行い、知識や技術の蓄積を行っています。手術に際してはSSEPやMEPなどの各種神経生理学的モニタリングを行って、機能的予後に配慮した手術を行っています。とはいえ、脳神経外科疾患は機能障害を残すことも少なくありません。そのため積極的に早期からリハビリテーションを開始しています。当院は約200床と病床数も限られており、急性期から回復期へスムーズに治療継続ができるように回復期リハビリテーション病院

との後方連携の構築を行ってきました。福岡地域に脳卒中地域連携パスが導入されてからは、積極的にパスを活用して運用実績は地域でトップの状態を維持しています。また、昨今脳梗塞治療においては、一次脳卒中センターコア施設としてドリップアンドシップ、ドリップ・シップアンドレトリーブ等の急性期病院間での病-病連携も積極的に行っています。

今後も地域医療の一翼を担うべく、医療機関は元より、患者さんからも安心、信頼していただけるように精進してまいります。

### 【専門分野】

脳神経外科一般・救急

### 【専門医・認定医】

日本脳神経外科学会指導医・専門医  
JPTECインストラクター・世話人

脳神経外科科長  
吉野 慎一郎



## (脳神経・脳卒中センター) 脳神経血管内治療部

当院では2013年から脳血管内治療を開始し、当初は1名で行っていましたが2015年より脳卒中センターに脳血管内治療部が設立され、指導医1名、専門医1名体制で行うようになりました。2023年度は今後脳血管内治療学会専門医試験受験予定の向井達也（脳神経内科、脳血栓回収療法実施医）、日下部太朗（脳神経外科）を含めた4名体制で治療を行っています。また脳神経内科、脳神経外科と協力し24時間体制で救急患者の診療に当たっています。

血管内治療とはカテーテルと呼ばれる細い管を使い、脳動脈瘤、頸動脈狭窄、脳血管急性閉塞、脳動静脈奇形、硬膜動静脈瘻などの脳や脊髄の血管疾患を、切らずに治す治療法です。一般的に通常の開頭手術と比較し、開頭や切開が不要であるため、患者の負担が少なく安全性の高い治療です。そのため脳血管内治療は心臓や末梢血管の血管内治療と同様に、年々治療症例数が増加しています。しかし脳血管内治療には多くの特殊な機器と特別な技術が必要であり、どの施設やどの医師でも安全に治療ができるわけではありません。また治療に伴う危険性もあります。疾患によっては血管内治療だけ

ではなく、開頭手術や薬物療法の方が安全で効果があることもあり、私たちは脳神経外科、脳神経内科で十分に協議してその患者さんに最も適した治療を選択できるように心がけています。

### 【対象となる疾患】

脳動脈瘤（未破裂、破裂）⇒プラチナコイルを用いた動脈瘤塞栓術、フローダイバータースtentを使用した治療  
頸動脈狭窄症、頭蓋内主幹動脈狭窄症⇒stent留置術、バルーン拡張術

超急性期脳梗塞⇒血栓回収機器を用いた脳血栓回収術  
脳動静脈奇形⇒オニキスなどの液体塞栓物質を用いた塞栓術  
脳腫瘍⇒術前栄養血管塞栓術  
硬膜動静脈瘻⇒液体塞栓物質やプラチナコイルを用いた塞栓術（経動脈的、静脈的）

脳血管内治療は、近年日進月歩に進化しています。脳血管疾患の患者さんをどの施設に紹介しようと迷われる先生方にとって、安心して治療を任せていただけるよう、これからも努力してまいります。

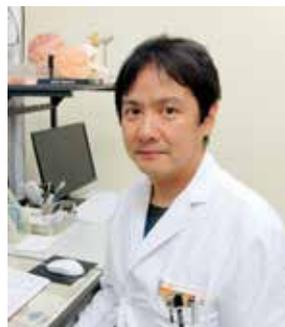
### 【専門分野】

脳血管障害

### 【専門医・認定医】

日本神経学会指導医・専門医  
日本脳卒中学会指導医・専門医  
日本脳神経血管内治療学会専門医  
日本内科学会総合内科専門医

脳神経血管内治療部内科科長  
中垣 英明



### 【専門分野】

脳血管障害

### 【専門医・認定医】

日本脳神経外科学会指導医・専門医  
日本脳神経血管内治療学会指導医・専門医  
日本脳卒中学会専門医  
日本脳卒中の外科学会技術指導医

脳神経血管内治療部外科科長  
福島 浩



# 専門・認定看護師の紹介

福岡市民病院では、12分野、19名の専門・認定看護師が組織横断的に活動しています。それぞれの専門分野に関するテーマで講座を開催します。臨床で活用に結び付く知識や技術などを中心にお伝えします。参加された方と情報共有し、地域医療の発展に貢献したいと考えています。

## 【がん看護専門看護師】

- 全人的な援助方法
- 多職種/地域との連携
- コミュニケーション技法

## 【感染管理】

- 標準/経路別予防策
- 感染対策ラウンド

## 【皮膚・排泄ケア】

- 創傷/褥瘡管理
- ストーマ/瘻孔管理
- 排泄管理
- スキンケア

## 【集中ケア】

- 循環/呼吸のフィジカルアセスメント
- 人工呼吸器の基礎知識

## 【手術看護】

- 術前評価と合併症予防
- 周術期の疼痛制御
- 手術体位
- 手術室での感染対策

## 【脳卒中リハビリテーション看護】

- 脳神経のフィジカルアセスメント
- 脳卒中中の急性期看護
- 再発予防の為の患者指導
- 高次脳機能障害について

## 【がん化学療法看護】

- がん薬物療法
- 患者へのケア
- 家族へのサポート

## 【認知症看護】

- 認知症の行動心理症状と対応
- せん妄の予防と対策
- 認知症患者への対応

## 【糖尿病看護】

- 糖尿病教育
- 生活指導/フットケア

## 【摂食・嚥下障害看護】

- 嚥下に関連した解剖生理
- 誤嚥を予防する対応
- 食事介助
- 口腔ケア

## 【クリティカルケア】

- 臨床推論のプロセス
- 事例展開
- 看護師の特定行為

## 【救急看護】

- 系統立てた評価と判断
- 心肺蘇生法
- 災害看護
- トリアージ

講座希望の申し込みや問い合わせは、問い合わせ窓口「地域医療連携室」までお願いいたします。

TEL: 092-632-3430 MAIL: renkei@fcho.jp

WEBサイトにて、当院の専門・認定看護師の活動を掲載中です。詳しくはこちらをチェック



【活動詳細】



【先輩看護師インタビュー】

## 皮膚・排泄ケア認定看護師の活動



【ポジショニング研修】

【退院後訪問】

## 救急看護認定看護師の活動



【BLS研修】

院内に限らず、研修や講演、所属学会発表等、地域関係者に対する教育的活動も積極的に取り組んでいます。

福岡市民病院看護部はこちらをチェック



# 第55回 福岡東部オープンカンファレンス

## 【テーマ】大腸癌診療の今

【開催】2023年12月11日(月)  
18:30~20:00



ご視聴は  
こちらから↓



### 【演題】

- ①大腸癌の検査と診断、内視鏡治療  
消化管内科科長 高橋 俊介
- ②内視鏡検査室の実際  
内視鏡検査室看護師 仙道 雅代
- ③大腸癌の外科治療  
消化管外科 西村 章



## 第62回 救急症例検討会



【開催】

2023年10月17日(火)  
17:00~

### 【演題】

- ①食道静脈瘤破裂により重度の貧血で  
救急搬送となった一症例  
救急科科長 小野 雄一
- ②緊急時や不規則抗体陽性時の  
輸血の対応について  
~検査技師の立場から~  
検査部主任技師 吉永 正教



ご視聴は  
こちらから↓



## 消化管症例検討会



【開催】

2023年10月25日(水)  
17:00~

### 【演題】

- ①内視鏡治療から17年後に再発を認めた  
十二指腸胃型腫瘍の一例(73歳女性)  
研修医 武田 一泰
- ②食道の通過障害を契機に発見された  
巨大食道脂肪肉腫の一例(62歳男性)  
研修医 名取 宥哉



ご視聴は  
こちらから↓



# 福岡市民病院 外来担当医一覧表 (受付時間: 平日 午前8時30分~午前11時)

◎:新患 ●:再来

診療科	専門分野	医師名	月	火	水	木	金
消化管外科	消化器外科, 一般外科	巢 秀史	○	○	○	○	○
	消化器外科, 一般外科	山本 学	○	○	○	○	○
	消化器外科, 一般外科	西村 尊	○	○	○	○	○
消化管内科	消化管一般, 病態栄養	高橋 俊介	●	◎	◎	●	透視 内視鏡
	消化管一般	岩尾 梨沙	◎	◎	◎	◎	透視 内視鏡
	消化管一般	松口 崇史	◎	◎	◎	◎	透視 内視鏡
	消化管一般	今村 壮志	◎	◎	◎	◎	透視 内視鏡
	消化管一般	長田 美佳子	◎	◎	◎	◎	透視 内視鏡
肝・胆・膵外科	肝・胆・膵外科, 胆石外来	後藤 綾子	◎	◎	◎	◎	◎
	肝・胆・膵外科, 胆石外来	三宮 瑞樹	○	○	○	○	○
	肝・胆・膵外科, 胆石外来	森田 和豊	○	○	○	○	○
	肝・胆・膵	小柳 生正	○	○	○	○	○
	肝・胆・膵	吉本 剛志	○	○	○	○	○
	肝・胆・膵	中村 史	○	○	○	○	○
	肝・胆・膵	田中 亮太郎	○	○	○	○	○
	血管外科, 腎不全外科	江口 大彦	○	○	○	○	○
	血管外科	川久保 英介	○	○	○	○	○
	腎臓内科	池田 裕史	○	○	○	○	○
腎臓内科	腎臓内科一般, 血液浄化	吉田 祐子	○	○	○	○	○
	腎臓内科一般, 血液浄化	原 裕一郎	○	○	○	○	○
	糖尿病	坂井 義之	●	◎	◎	●	◎
	糖尿病	押領司 鷹子	◎	◎	◎	◎	◎
	糖尿病	原由 由紀子	◎	◎	◎	◎	◎
感染症内科	感染症	谷 直樹	○	○	○	○	○
	感染症	芳野 秀治	○	○	○	○	○
	感染症	清澤 恵理子	○	○	○	○	○
放射線科	画像診断一般, IVR	今村 由美	○	○	○	○	○
	画像診断一般	定達 咲紀	○	○	○	○	○
	画像診断一般	竹中 耕平	○	○	○	○	○

診療科	専門分野	医師名	月	火	水	木	金
呼吸器内科	呼吸器内科一般	柴原 大典	○	○	○	○	○
内科	循環器一般, 虚血性心臓病, 心不全	※曜日による 交代制	押領司	坂井	長田	小柳	田中亮
	循環器一般	弘永 潔	●	◎	◎	●	◎
	循環器一般, 不整脈	大坪 秀樹	◎	◎	◎	◎	◎
	循環器一般	康 憲史	◎	◎	◎	◎	◎
	循環器一般	松浦 託	◎	◎	◎	◎	◎
	循環器一般	馬場 功十	◎	◎	◎	◎	◎
	循環器一般	渡邊 高徳	◎	◎	◎	◎	◎
	循環器一般	塩入 慧亮	◎	◎	◎	◎	◎
	循環器一般	早川 勝之	◎	◎	◎	◎	◎
	循環器一般	吉野 慎一郎	◎	◎	◎	◎	◎
脳神経外科	脳血管障害, 神経外傷, 脊髄疾患, 脳腫瘍, てんかん	福岡 浩	◎	◎	◎	◎	◎
	脳神経外科一般, 救急	日下部 太郎	◎	◎	◎	◎	◎
	脳神経外科一般	長野 和久	◎	◎	◎	◎	◎
	脳神経内科一般	中垣 英明	◎	◎	◎	◎	◎
	脳神経内科一般	柴田 薫一	◎	◎	◎	◎	◎
	脳神経内科一般	向井 達也	◎	◎	◎	◎	◎
	脳神経内科一般	齊藤 大一	◎	◎	◎	◎	◎
	脳神経内科一般	久江 努	◎	◎	◎	◎	◎
	脳神経内科一般	田中 哲也	◎	◎	◎	◎	◎
	脳神経内科一般	中原 寛之	◎	◎	◎	◎	◎
整形外科	股関節外科, 膝関節外科, 脊椎外科	青野 誠	◎	◎	◎	◎	◎
	整形外科一般	江口 大介	◎	◎	◎	◎	◎
	整形外科一般	坂井 崇一郎	◎	◎	◎	◎	◎
眼科	眼科一般	前田 真奈美	○	○	○	○	○
救急科	救急医学, 集中治療医学	小野 雄一	○	○	○	○	○
集中治療部	救急医学, 集中治療医学	柳田 雄一郎	○	○	○	○	○

## 編集・発行

地方独立行政法人 福岡市立病院機構

## 福岡市民病院

〒812-0046 福岡市博多区吉塚本町13番1号  
TEL 092-632-1111 FAX 092-632-0900  
http://www.fcho.jp/shininhp/

■受付時間: 平日8:30~11:00  
■休診日: 土日祝日・年末年始(12/29~1/3)  
■急患は救急外来で24時間対応します。



地域医療連携室直通 (平日 8:30~17:00)  
TEL: 092-632-3430 FAX: 092-632-3431